

79 大神(おおみわ)神社のササユリ園

—ササユリ奉仕団の方たちの努力の成果です—

奈良の率川(いさがわ)神社にお参りして「ユリの花の行列を見た」というお便りありがとうございます。いっしょにお参りしたおばあちゃんはお祭の様子をちぎり絵にされたんですね。秋の展覧会で見せてもらうのを楽しみにしています。



では、静香さんの「このお祭とユリのことを教えてください」という質問への返事です。

率川神社には媛蹈躰五十鈴姫命(ひめたたらいすずひめのみこと)がお祭りされています。このお姫様は三輪山のふもと、ササユリが咲く川のほとりで大きくなられ、この花がとても好きだったそうです。それで、姫神さまに喜んでいただこうと、三輪山を御神体とする大神神社からササユリが送られ、毎年6月17日に三枝祭(さいくさまつり)が行われます。しかし、ササユリは環境の変化や乱獲でしだいに減って来たので、平成4年、大神神社に「ささゆり奉仕団」が結成され、昔のようにササユリいっぱいにしてしようという取り組みが始まりました。こうした努力が実り、平成11年にササユリが咲き始め、今では3000本にもなっているそうです。

おじさんは、率川神社のお祭が近づいた6月10日、大神神社に参拝し、ササユリ園を見学してきました。いただいたパンフレットに「花は淡いピンク色で香りは高く、うつむき加減の楚々（そそ）とした姿から最も観賞価値の高いユリの1つとされています」と書かれているとおり、「見て、見て、私きれいでしょ。こんなに見事なのよ」なんていった派手さはなく、ひっそりと咲いているこのササユリは素敵です。



ササユリ園の周辺には、発芽から開花まで少なくとも6年かかるというこのユリの生態や率川神社で行われる三枝祭などを解説した看板があつてたくさんのお話を勉強できました。また、ここには、「ささゆりの花の美しさと香りを来年もお届けできますようお心持ちをお願いします」と書かれた募金箱があり、これからも、こうした活動が続くことを願って募金してきました。

こうして育てられた花は、6月17日に行われる率川神社のお祭に間に合うよう、約100本が大神神社を出発、JR桜井線の三輪駅から電車で奈良に向かい、JR奈良駅から市内を巡行し率川神社に到着します。これがあなたの見た行列で、酒樽をササユリの花で飾って神前にお供えされます。

今度は大神神社にお参りしてはどうですか。

(平成26年6月・小6の静香さん宛て)

スポットの案内

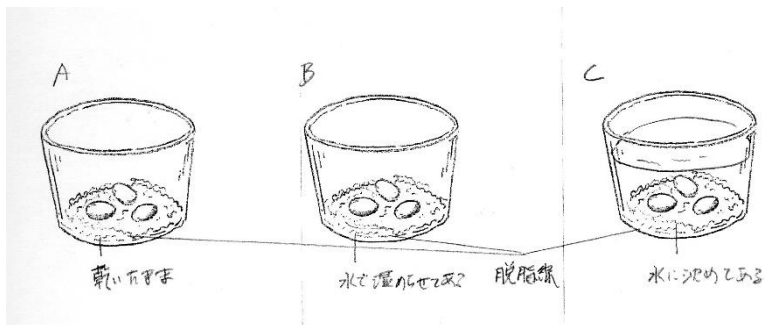
大神神社のご祭神・大物主大神（おおものぬしのおおかみ）は三輪

山に鎮まっておられるので、本殿はなく拝殿からお山を拝みます。JR桜井線三輪駅下車東へ5分、桜井駅からは二の鳥居までのバスも出ています。ささゆり園は参道の北側にあります。入園は無料ですが、募金への協力をお願いします。

理科のワンポイント「種子の発芽」

小学校学習指導要領では、5年生の理科で「植物の発芽には、水、空気及び温度が関係していること」を勉強することになっています。でも、これを覚えておけばいいという訳ではありません。「指導計画の作成と内容の取扱い」の項で「観察、実験や自然体験、科学的な体験を充実させることによって、科学的な知識や概念の定着を図り、科学的な見方や考え方を育成するよう配慮すること」と定められていますから、発芽の条件を観察や実験を通して調べることになります。

発芽に水が必要なことは、一方には水を与え、もう一方には水を与えないでその様子を調べます。このとき、他の条件は同じにします。同じように空気を与え、温度を同じにしておくのです。子どもたちに考えさせると、いろいろな意見を出してきます。そして、乾いた脱脂



綿の上に種子を置いたAと水を含ませた脱脂綿の上に種子を置いたBを比較することになります。「手っ取り早くAとCにしておけばいい」

という意見が出てきます。でも、これは駄目です。Aは空気が与えられ水がありません。Cの種子の周りには空気がなく水があるのです。1つの条件だけを変え、他の条件は同じにしなければならないのです。適当な温度が必要なことはどう調べればいいでしょう。一方は水や空気がある状態で室内に、もう一方は冷蔵庫に入れます。でも、このままではいけません。冷蔵庫の中は真っ暗です。室内においたほうは光が当たります。同じ条件にするには室内においたものには箱をかぶせるなどの方法で光が当たらないようにしなければなりません。

こうして、子どもたちは理科を勉強していくのです。今ではこういう実験をすることができますが、私が教員になった頃、理科室はおろか学校に冷蔵庫なんてありませんでした。理科教育振興法という法律のおかげで理科室に冷蔵庫が入ったのは、昭和48(1973)年頃だったと思います。この法律のおかげで理科学習の物的環境は向上しました。しかし、物だけでは駄目なのです。

子どもたちの考えた実験のための道具を準備してあげる人も必要です。高校には実験助手が置かれていますが、より広範な分野を指導しなければならない中学校やごく限られた教科以外の全教科を指導しなければならない小学校にも実験の手助けをしてくれる人が必要なのです。準備、後始末に当てる時間がなく、また、実験だけがをする子どもが出たらという心配などから「結果だけを教えておこう」ということにならないようにする施策も必要だと思います。